

# 学力向上への提言 10 か条

「総合学力研究会」代表 大阪教育大学教授 田中 博之

今回の調査のこれまでの分析を通して、教科学力の向上と家庭学習の充実との関係を明らかにしてきた。それを踏まえて、「学力向上への提言 10 か条」(仮説)を以下に示す。

- 1 子どもの教科学力の向上には、家庭学習力の向上が大切である。
- 2 とくに家庭学習の充実は、応用(活用)型の学力の向上にとって重要である。
- 3 子どもの宿題への取り組みにおいては、基礎的な反復ドリルだけでなく、応用的・探究的な課題も合わせて行わせることが教科学力の向上につながる。
- 4 子どもの家庭学習においては、授業の予習や復習にしっかりと取り組ませるための働きかけが大切である。
- 5 子どもに家庭学習を行わせる際には、上記の③と④に加えて、生活の記録等の生活習慣の確立(学びの基礎力)に関わる課題や、クラスにある問題の解決等の社会的実践力の育成に関わる課題等、多様な課題に取り組ませることが、教科学力の向上につながる。
- 6 子どもに宿題に意欲的に取り組ませる上で、とくに「子どもが計画的に取り組めるように見通しを持って事前に課題を示す」「めあてや評価のあり方を示す」「子どものやる気を引き出す課題を出す」「宿題を授業の中で活かす」などの諸点に配慮することが大切である。
- 7 宿題をさせるだけでなく、宿題以外の自主的な学習にも取り組ませることが、授業の理解度と教科学力の向上につながる。
- 8 子どもの教科学力の向上のためには、教師は、宿題と連動させた授業展開を工夫するとともに、子どもの家庭学習充実に関する総合的な取り組みを行うことが重要である。
- 9 子どもの教科学力の向上のためには、教師による家庭学習習慣化への取り組みとともに、保護者と連携して子どもの家庭学習を豊かに支援することが大切である。
- 10 校長は、教師の家庭学習指導力や保護者の家庭学習支援力を高めるために、家庭学習充実に向けたリーダーシップを発揮することが大切である。